

令和8年度 小野幌学校「学ぶ力」育成プログラム

学校番号：24502

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
実態	成果
<p>◇CRT 検査の結果（1～5年）から、国語・算数において、「知識・技能」、「思考・判断・表現」の得点は、全学年全国平均を上回った。</p> <p>◇校内研究では、課題探究的な学習を目指し、問いをもたせることや、個別探究・協働探究・振り返りといったAARサイクルを意識した授業実践を全担任や教科担当が行い、研修を深めることができた。</p>	<p>◇アンケートから「学習に見通しをもつ」や「自分で計画を立てて勉強する」項目で、他の項目より低い数値となった。今年度も、継続して「子どもが見通しをもつことのできる授業づくり」や、学習の中で試行錯誤したり、学びの振り返りの時間を設定したりする取組が必要になる。</p> <p>◇家庭学習の取組は個人差が大きい。取り組み方の手引きを継続して紹介していく。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
<p>◇「学ぶ力」の育成を目指すに当たって基盤となる相互承認の感度は、子ども一人一人の主体性を大切にしながら多様な学びの中で、協働的な学びを通して磨かれていく。一人一人が学びの主人公になるために、本校では、異学年での交流活動や学習・行事に取り組む中で、他学年の友達のよさを見付けて、伝えたり聴き合ったりする活動を大切にしている。また、学びの土台となる学級づくりの中でも、子ども同士の人間関係を構築していく取組について校内研修を進めていく。</p>	
「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力	
つながりを実感し、学び合う力	
取組	課題探究的な学習の推進 に向けて
<p>【視点1】 課題探究的な学習の中で、子どもが「問い」をもち、課題解決のために見通しをもって主体的に学べる教材化を図る。</p> <p>【視点2】 個別探究・協働探究を通して学びをつなげるための教師の関わり。</p> <p>【振り返り】 子どもの振り返りを共有し、学びをつなげたり、価値付けたりすることで、子どもの主体的に取り組む態度の育成を図る。</p>	<p>◇児童会、委員会による自主的・主体的な活動の充実 （縄チャレ、挨拶活動、ふれあい活動、ありがとう週間、豆つかみ大会、ペア学年交流、落ち葉の肥料づくり等）</p> <p>◇自分たちの生活や活動を発信する場の設定 →全校朝会での児童会、委員会活動連絡 →学年朝会や学級の朝の会での係・委員会からの連絡 →絆づくりメッセージコンクール・パートナー校との児童会、生徒会交流</p>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について	
<p>◇教職員へのICT活用研修・子どもの使用ルールの確認を図る。</p> <p>◇小中のパートナー校で、発達段階に応じた習得すべきスキル目標を決め、校内で周知を図る。</p> <p>◇授業研修や学年研を通して、教科指導における子どもの個別探究や協働探究の効果的な活用の仕方を交流していく。</p>	

<本プログラムの実行に向けて>

